



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

「“顔晴れ”＝声出せ 汗出せ 知恵を出せ＝」

～まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和6年12月19日
(文責) 校長 野津

＝ 祝 創立150周年記念式典 ＝

明治7年6月18日に開校した本校の「創立150周年記念式典」が、このほど11月24日に、松江市長上定昭仁様、松江市教育長藤原亮彦様にご臨席いただくとともに、地域をはじめ、これまで本校を支えていただいた皆様にお集まりいただき、5・6年生が参列して華やかに執り行われました。この日を迎えるにあたり、これまで乃木小学校教育のために献身努力された先人の方々、そして多方面から物心両面にわたりお力添えをいただいた多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

まず、記念事業の実行委員長である乃木教育会会長 吉金隆様からは、長年の歴史に基づいた乃木小の歩みを語っていただきました。次に音楽会で好評を得た「地球星歌」を6年生が再び合唱し、心のこもった澄んだ歌声が参会者一人一人の心にしみじみと響き渡りました。その後、来賓の上定松江市長様からは、近年の乃木小の取組に触れながら温かいお祝いの言葉をいただきました。「思い出トーク」のコーナーでは、これまで乃木小教育に深くかかわってくださった3人の方々から乃木小にまつわる思い出話を聴かせていただきました。そして児童への記念品（クリアファイル）授与が行われ、卒業生からのメッセージを含めた学校長の挨拶が続き、お祝いのくす玉が開かれると会場いっぱいに大きな拍手が沸き起こりました。

参加した6年生からは「この歴史ある年に乃木小学校で勉強できることを幸せに思う」「改めて乃木のすごさを感じて、乃木小に通える喜びを感じられる一日になった」「この大切にされている乃木小の歴史を守って引き継いでいけるような姿で卒業していきたい」などの感想がありました。

おかげをもちまして、みんなの心に強く残る感動的な節目の日となりました。「さあ150（行こう）！」の思いを胸に、これまで脈々と受け継がれてきた乃木小学校の歴史と伝統を改めて見つめ、次の時代に向けてまた新たな一歩を踏み出していくための励ましと勇気を与えていただきました。（裏面参照）



50 年前、開校百周年を記念する 1974 年の資料から《原文》（当時の校長 門脇秀雄先生の言葉）

この百年の間には、それはそれはいろいろなことがあったに違いありません。校舎に、木々に、往時を偲び胸に響くものの多い方々も多数だろうと思います。特に古くからの農村地域だった乃木が、松江の住宅地域への急変、それに伴う人口の急増が児童の急増となり、校地校舎の狭隘をもたらしつつある最近の激変は誰も予想し得なかったことでありましょう。

然し、如何に激変が続こうとも、何時も先輩諸賢並びに地域の方々の質実剛健の気風のもと子供を大切にし教育を支える情熱は一貫しており、数々の輝かしい実績を残し隆々発展の今日を迎えさせておりますことは、欣快至極であります。

温故知新。百年の歴史を背負い、百年の未来を思い計らねばならない今日であることをお互い自覚し、次代を担う子供にもよく教えておかねばなりません。これを機会に乃木の伝統を再確認し、香り高く緑深い文教地区として教育の理想的環境に恵まれる乃木の教育を一層格調高く充実したものに育てるよう決意も新たなものを覚えております。

＝ 学力育成研究会 ＝

12月5日、「しまねの学力育成プロジェクト」の推進役として研究指定を受けている本校の授業研究会が開かれました。校内の全教員に加え、市内外から来校された大勢の先生方に3年間の実践的研究の集大成として授業を公開しました。本校の取組をもとに、市内の各校においても更なる学力向上につながる授業改善を図っていくことがねらいです。本校では、「内容をこなす学習から学びたくなる学習へ」「話し合っ
て『考えが変わった』『できるようになった』』というような実感がもてる学習へ」という考えのもとで授業づくりに取り組んできました。

今回は、「『表現力を高める』ための効果的な学力育成モデルを探る！」がテーマでした。授業を工夫することで、各自が主体的に課題に向き合い、多様な考えを受け止めながら自分の考えを表現して自分の学びを深めていけるようにすることを目標にしたものです。公開した授業は、「対話でつなげる」を切り口に、こどもが対話をしたくなるような授業をめざし研究を進めた1年生・3年生の国語、6年生の算数の3クラスでした。たくさんのお客さんの前で、こどもたちも進んで仲間と意見を交わし、思いを伝え合いながら、意欲的に学習を進めていました。前向きな一人一人の姿勢を他校の先生方に見てもらうよい機会にもなりました。本校のこどもたちの姿が一つのモデルとなって広められ、他校の授業に生かされるかと思うと嬉しい限りです。公開授業の後は、この日の授業をもとに、これからの学力育成の在り方について参会の教員で意見交換をし、県教委・市教委・県立大学等の先生方からも指導を受けました。たくさんのお褒めの言葉もいただきました。

教員の仕事に限ったことではありませんが、誰でも慣れてしまうと自分のこれまでの経験に頼って仕事を進めていきがちになります。教員が「教えること」のプロであるためには、「学びの専門職」として、「自らが学び続けること」にもプロとしての意識をもつ必要があります。ここで話し合われた内容や、講師の先生からいただいた助言を、今後の乃木小の日常の授業につなげ、前述した先人の思いも受け止めながら、こどもたちの更なる学力向上に還元していきたいと思ひます。



大谷翔平選手から学校に贈られたグローブを握りしめ、一人一人が「目標達成」のために毎日をいか
に過ごしていくかを頭に描きスタートした令和6年もあとわずかになりました。今年の大谷選手の活躍
は言うまでもなく、乃木小におきましても、保護者や地域の皆様には様々なところで温かく支えられ、
勢いよく天に登る龍のように成長するこどもの様子が数多く見られた辰年でした。ご協力ありがとうご
ざいました。2学期も終わりとなりますが、各ご家庭におかれましても、年末年始ならではの経験を大
切に、心温まる冬休みとなりますように……。どうぞよいお年をお迎えください。